



- 前列右より
- 川口 正徳議員
 - 近藤 眞弘議員
 - 津田 新三議員
 - 桐田 真人議員
 - 草野 聖地議員
- 後列右より
- 竹内 基二議員
 - 青山 三四郎議員
 - 竹内 照夫議員
 - 仲野 弘子議員
 - 寺田 英幸議員

幹事長 津田 新三

結びに、我が会派は、今後とも、住み続けたいと思えるまちづくりを目指して、一致団結して努力を重ねていく所存ですので、さらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶いたします。

ごあいさつ

新春の候、市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、「元号が「平成」から「令和」へと変わり、新たな時代への転換期を迎える1年となりました。

振り返りますと、4月には市議会議員一般選挙が執行され、新人11人を含む38人の議員による大津市議会の新体制がスタートし、我が会派湖誠会においても、10名の所属議員により、心機一転、新たな任期を迎えることとなりました。

その後、5月には散歩中に信号待ちをしていた保育園児と保育士が巻き込まれる大変痛ましい交通事故が発生しました。改めて、亡くなられた園児並びにご家族の方に謹んで哀悼の意を表しますとともに、負傷された園児や保育士のご回復を心よりお祈り申し上げます。この事故を教訓とし、市議会としても安全対策等に要する補正予算を審議・可決するとともに、再発防止に向けた取り組みが継続されるよう、全力で傾注していきたいと考えています。

また、11月特別会議に提出されたコミュニティセンター条例案を審議した結果、地域の意向や事情を考慮して進めていくとする本条例案に賛成し、採決の結果、可決されました。今後、市議会としても、地域の声に真摯に耳を傾け、よりよいまちづくりに向け取り組んでまいります。

湖誠会は、地域の皆様のお声を大切に大津の将来を創造します。



① 津田 新三

住み続けたい町「大津」を目指し、市民福祉の向上に全力を尽くすと共に、北部地域のハード・ソフト事業を通じ地元の発展に努めます。

幹事長



② 仲野 弘子

堅田学区では県道高島大津線の仰木口交差点から東側へ延長540m幅員14mの都市計画道路3.5.101号が事業認可を受け今後通学路の安全、観光駐車場へのアクセス強化が図られ道路整備の完成に取り組めます。



③ 草野 聖地

子どもは、地域の未来です。地域の子どもの笑顔を増やし、すべての人たちの元気につながるよう最善を尽くします。一緒に楽しみましょう。

幹事(会計)・政調副会長



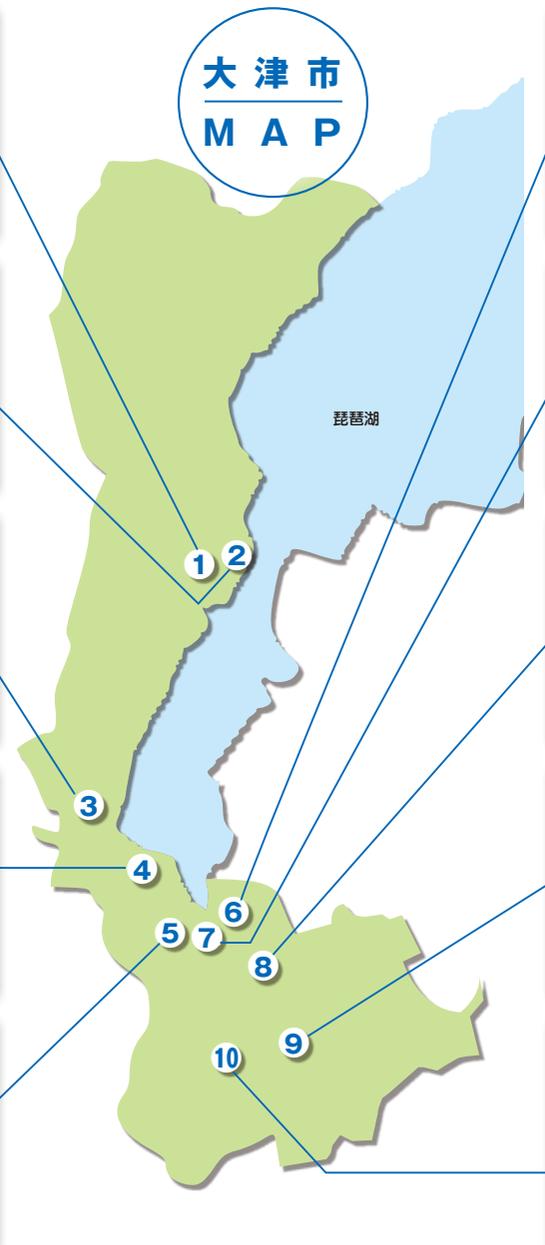
④ 竹内 照夫

大津市には、京都や奈良に負けない歴史と文化があります。こうした歴史・文化遺産を守りつつ、新たなまちの魅力づくりに尽力してまいります。



⑤ 竹内 基二

子どもたちが元気に育ち、お年寄りが安心して老いを迎えられる環境を整え、災害や事故から市民を守り、歴史文化を大切にす大津を目指します。





⑥ 近藤 眞弘

人口増加が続く瀬田地域と、人口減少地域の課題解決及び子どもから高齢者までが安心・安全に通行できる交通対策に取り組めます。

議長



⑦ 寺田 英幸

『住み続けたい』と言われるように、大津市民、地元住民の声を丁寧に、そして大切に聞き、市政に生活者の声を届ける「かけ橋」として、日々新(ひびあたらなり)、『利他に尽くす』政治を本年も継続していきます。



⑧ 桐田 真人

「日々、真剣勝負」。真面目に丁寧に議員活動に取り組み、ひとつひとつの結果を重ね、信頼され、期待される確かな政治を行います。

副幹事長・政調会長



⑨ 川口 正徳

まち作りの主役は市民の皆様です。少子高齢化により、市政を取り巻く環境は混沌としていますが、負託を受けた者として、ともに感じ、ともに汗し、ともに喜びを感じられるよう責務を果たして参ります。

副議長



⑩ 青山 三四郎

- ・ 生き、育てやすい大津市
- ・ 住みやすい環境をつくる大津市
- ・ 若者を呼び込める大津市
- ・ 女性が活躍しやすい大津市 を目指します。

11月通常会議 一般質問

※質問順に掲載しています。

Q

桐田 真人議員

児童クラブにおける昼食提供の実施について

児童クラブでは年々、夏休み等の長期休暇期間中の利用者が増加しているが、この時期は給食がなく、保護者の負担感が増しつつある。奈良市で導入されている「バンビーランチ」を参考に、1月から稼動する新しい給食センターとの機能連携を図り、仮称「大津市若鮎ランチ」事業の開始を提案するが、見解を伺う。

A

児童数が増加する夏季休暇期間に給食センターを稼働し、全児童クラブに配送するには、コスト面のほか、各クラブには配膳室や食器の保管スペースがなく、職員の確保などの課題もあることから、現時点では困難だと考えている。今後、他市の先進事例について総合的に調査研究していく。

Q

青山三四郎議員

行財政改革の視点に立った公共施設マネジメントの推進について

公共施設の老朽化は市民と行政とで解決すべき避けて通れない問題であり、特に令和5年頃から一斉に更新時期を迎え、修繕や更新費用の急増が予測される。少しでも市民負担を減らし、持続可能な公共施設マネジメントの推進が重要だと考えるが、財政運営も含めた市の見解を伺う。

A

少子高齢化や人口減少に伴う税収の縮小や社会保障費の増大に対応するため、公共施設マネジメントの推進は重要と考えている。現在、公共施設の適正な総量と配置について庁内横断的に検討を進めており、これらの取り組みが将来世代に負担を残すことなく持続可能な財政運営に繋がると考えている。

Q

竹内 照夫議員

膳所駅南側駅前広場の今後の整備方針について

駅南側からJR膳所駅を利用される歩行者の安全と利便性の確保及び交通結節機能向上のためには、膳所駅南側駅前広場の早急な整備が必要と考えるが、今後どのような方針で整備を進めようとしているのか、市の見解を伺う。

A

令和2年度は民間活力導入の可能性を検討し、令和3年度以降、駅前広場の見直しを前提に、交通結節機能だけでなく民間活力による南側の整備について、マーケットサウンディングを実施し、喫緊の課題である歩行動線の確保に向けた事業化に取り組み。また引き続きJR西日本など関係機関と協議しながら、事業化に向けた事業費や用地の確保など、必要な検討を進めていく。

Q

寺田 英幸議員

老人福祉センター利用者における勤労意欲層の雇用促進について

勤労意欲を持たれる老人福祉センターの利用者がシルバー人材センターの登録を検討されるきっかけとなれば、両者のマッチングにより高齢者の雇用促進に繋がると考えるが、本市の見解を伺う。

A

市内5ヶ所にある老人福祉センターは、年間延べ14万5千人を超える高齢者が利用されている。相談事業の中で就労に対する相談も受けているが、その一環として、シルバー人材センターの案内やパンフレットの配布など情報提供に努めている。今後もポスターの掲示やチラシ配布など利用者の目に留まりやすい工夫に努め、シルバー人材センターの周知や会員登録に向け支援を行っていく。

質問、答弁は一部抜粋です。詳しくは大津市議会ホームページをご覧ください。

本市の取り組み

公民館のコミュニティセンター化について

本市では、現在、地域コミュニティの拠点として、1学区に1市民センターを設置していますが、多様化する地域課題を地域で解決できる仕組みづくりを行い、住民自治の確立された魅力あるまちづくりの実現が求められています。

そこで、生涯学習の拠点としての公民館機能は残しつつ、地域コミュニティ活動拠点としての市民センターをより活用していくため、公民館のコミュニティセンター化を目指しています。

11月特別議会では、執行部よりコミュニティセンター(略してコミセン)条例案が提出され、本会議や特別委員会においても活発に議論されました。湖誠会では、本条例案が公民館継続を含んだ5つの選択肢から運営パターンを選択できることや、地域の意向や事情を一定考慮した内容であることなど熟考のうえ賛成し、採決の結果、賛成多数により可決されました。

キッズ・ゾーンの設置について

昨年5月に発生した散歩中の保育園児と保育士が巻き込まれる痛ましい交通事故を踏まえ、子どもの安全を守る取り組みとして、本市は、公立保育園・民間保育園・民間認定こども園など169園の散歩ルートの点検を実施しました。

また、モデル施設として4園にキッズ・ゾーンを設置し、今後はモデル施設を除いた183施設を対象に、キッズ・ゾーンの路面表示の設置場所を検討するとしており、会派としても、引き続きその進捗状況を注視していきます。



近江神宮外苑公園 (BRANCH PARK) オープン



11月29日、大津びわこ競輪場の跡地に近江神宮外苑公園 (BRANCH PARK) がオープンしました。本公園は、隣接の商業施設「ブランチ大津京」と同時に開設されたもので、敷地面積は約6万4800㎡、ひょうたん型の敷地に2つの芝生を配し、ベンチや遊具を配した憩いの場として、また、商業施設が公園を取り囲む立地を生かし、多彩なイベントが開催されるにぎわいの場として利用できます。また、スポーツエリアでは、各種スポーツを通じた交流の場になっています。今後、本市としては、周辺道路におけるスムーズな車両の運行や歩行者の安全確保に向けた対応を進めていきます。

本年3学期から、市内全中学校で給食がスタート

本市では、昨年末、新たに東部学校給食共同調理場が完成し、北部学校給食共同調理場、南部学校給食共同調理場の計3箇所から給食が届けられることとなります。

新東部学校給食共同調理場では、民間事業者の有するノウハウを活用し、より効率的で良質な給食サービスを提供するため、一つの事業者が施設の整備から維持管理まで行う方式(PFI方式)を導入しています。

栄養バランスがとれ、安全、安心でおいしい中学校給食として、献立には地元食材を取り入れるなど、給食を生きた教材として活用するとともに、食育や地産地消の推進など「食」を通じた学びの中で、子供の成長を推進します。

